

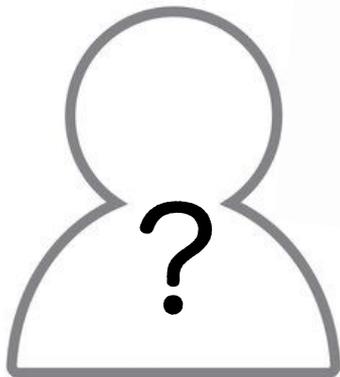


# 27班 被災者の心の健康

竹津緋七乃 宮本愛梨 曾山明希 平田光 福田拓海

# ターゲット

4歳から6歳の子どもたち



自己表現と自己治癒が困難



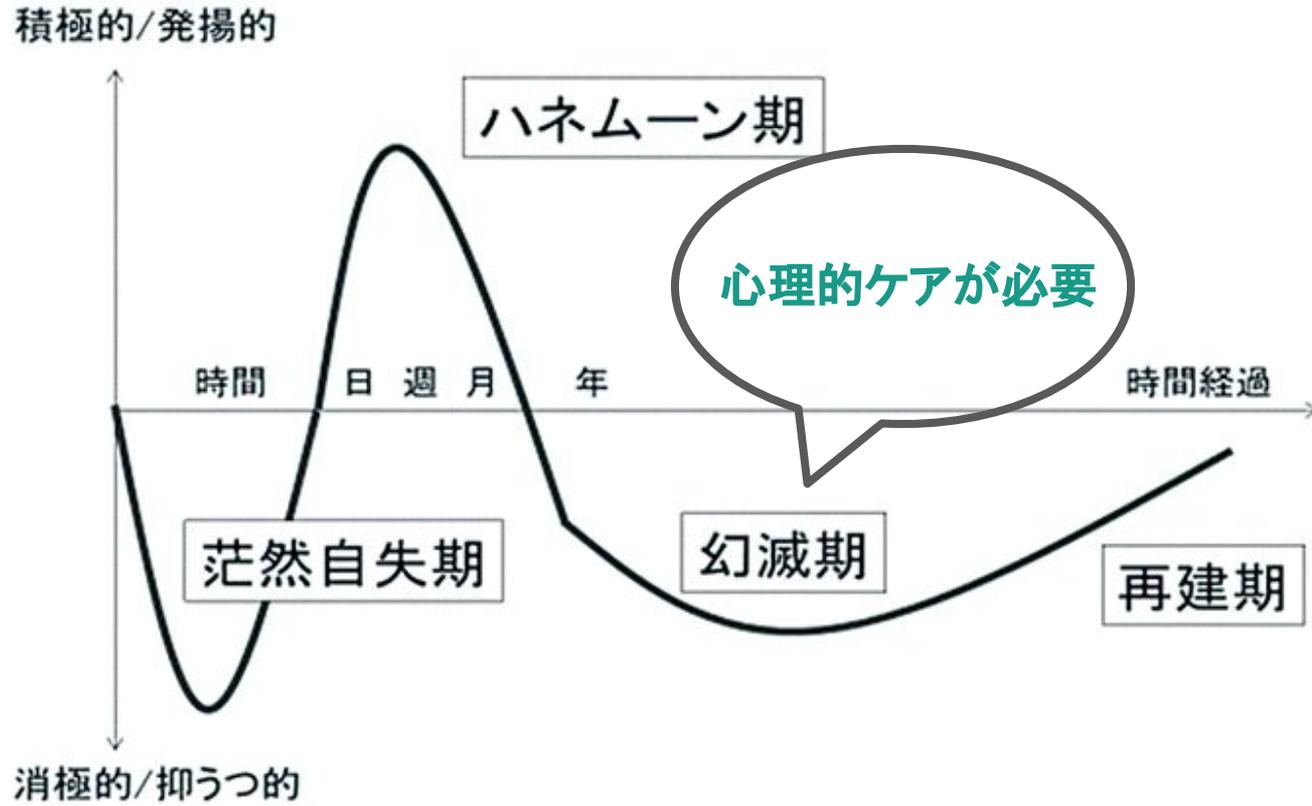


図1 時間経過と被災者の心の動き

**カウンセリングではない方法で！**

—



# 災害時の子どものストレスと支援の重要性

子どもはストレスを自覚しにくい

周囲に気を遣い、遊びを我慢する

その結果、怒りっぽくなる、体の不調を訴えることも

子どものストレス軽減には:

→「いつもどおり遊べる時間と場所」の確保が最も有効



## ヒアリング結果

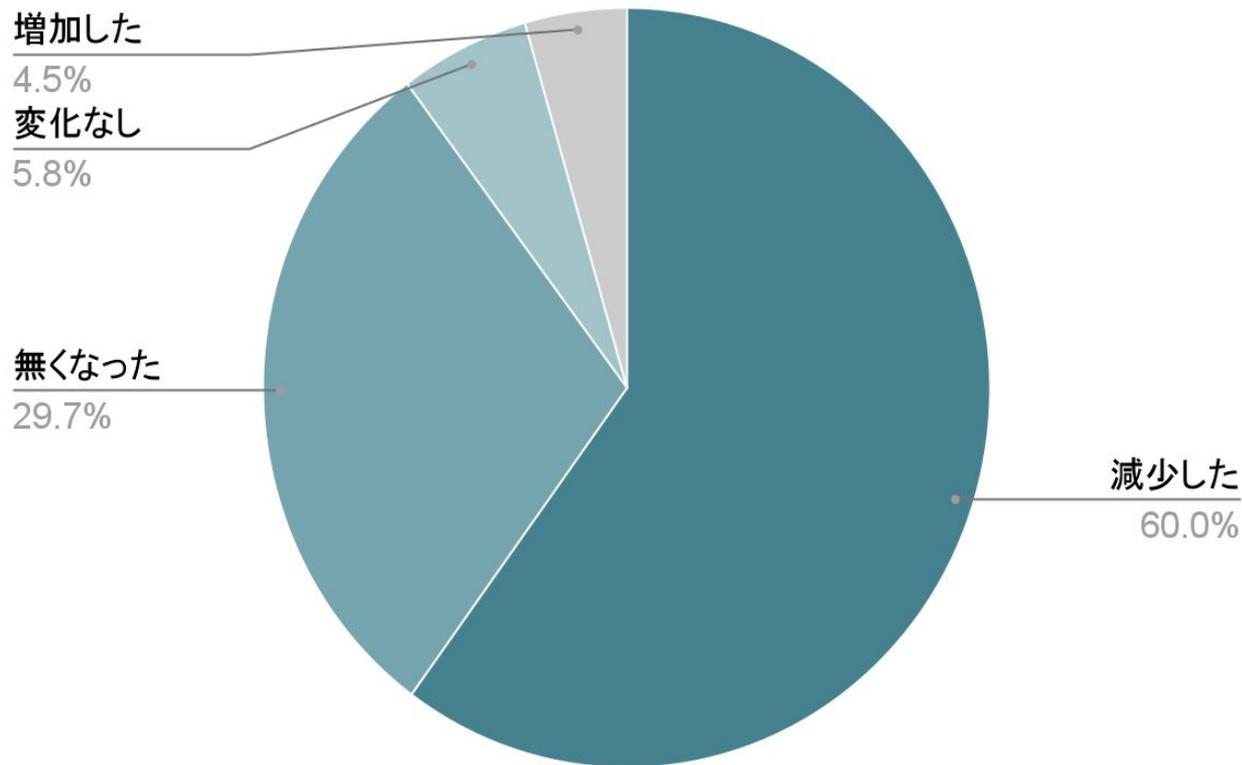
ヒアリング先

・七尾市小丸山認定こども園



遊びに行く機会やイベントの減少

# お出かけや遊びの機会の変化 (震災発生3ヶ月後)





# 提案

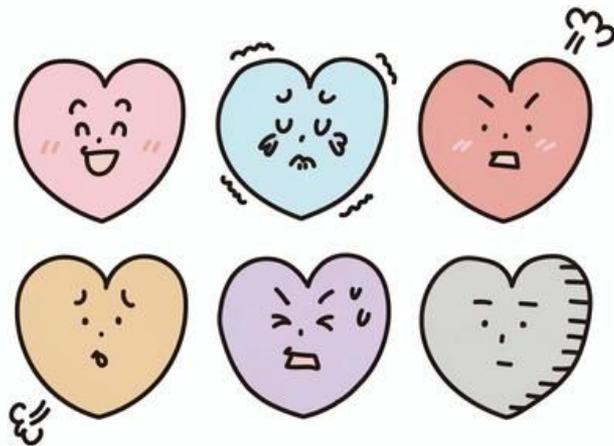
6月9日(月) 小丸山保育園

遊びの機会を高校生が提供する！

---

# 目的

遊びは被災後の子どもたちの  
心の回復に有効かを知る



---

# 取り組み

01 指導案作成

---



02 計画実行

---



03 考察

---



## 02計画実行

自己紹介 → 水鉄砲つくる → 的あてゲーム





# 結果

## 実行前

子供達が自分たちに緊張気味になっていると感じた

## 実行後

子供達は積極的に取り組みに参加してくれ、心理的な不安がなくなっているように思えた



## 今後について

活動は1回のみで、震災から時間が経った時期に実施

→心のケアは震災直後の「茫然自失期」に行うのがより効果的

→継続的に活動を行い、心の変化を記録・分析する必要がある

子ども以外の世代にも支援が届く体制を、平時から整えることが大切



## 遊びの考察

- ・震災直後、子どもの遊びに関する支援は後回しにされがち  
→子どものストレス蓄積、心の発達に悪影響

限られた物資でできる遊びを事前に考えておく必要性



## 参考文献

- ・外傷ストレス関連障害に関する研究会 金吉晴  
「心的トラウマの理解とケア」(2006)